

ゼーんぶプラスチック!

私たちはプラスチックに囲まれて生活しています。プラスチックはとても便利です。使い捨てのものもたくさんあります。まだまだ使えるけれど、新しいものがほしい場合は捨ててしまうこともあります。



芳香剤や紙おむつにも使用される吸水性ポリマーもプラスチックの仲間です。



どれもこれも私たちが日々使っているものばかりです。



フリースは合成繊維 100%。洗濯するたびにたくさんのマイクロプラスチックが発生します。



増えすぎたプラスチックは、いろいろな問題を巻き起こしています。それは、全部、私たちに関係があります。

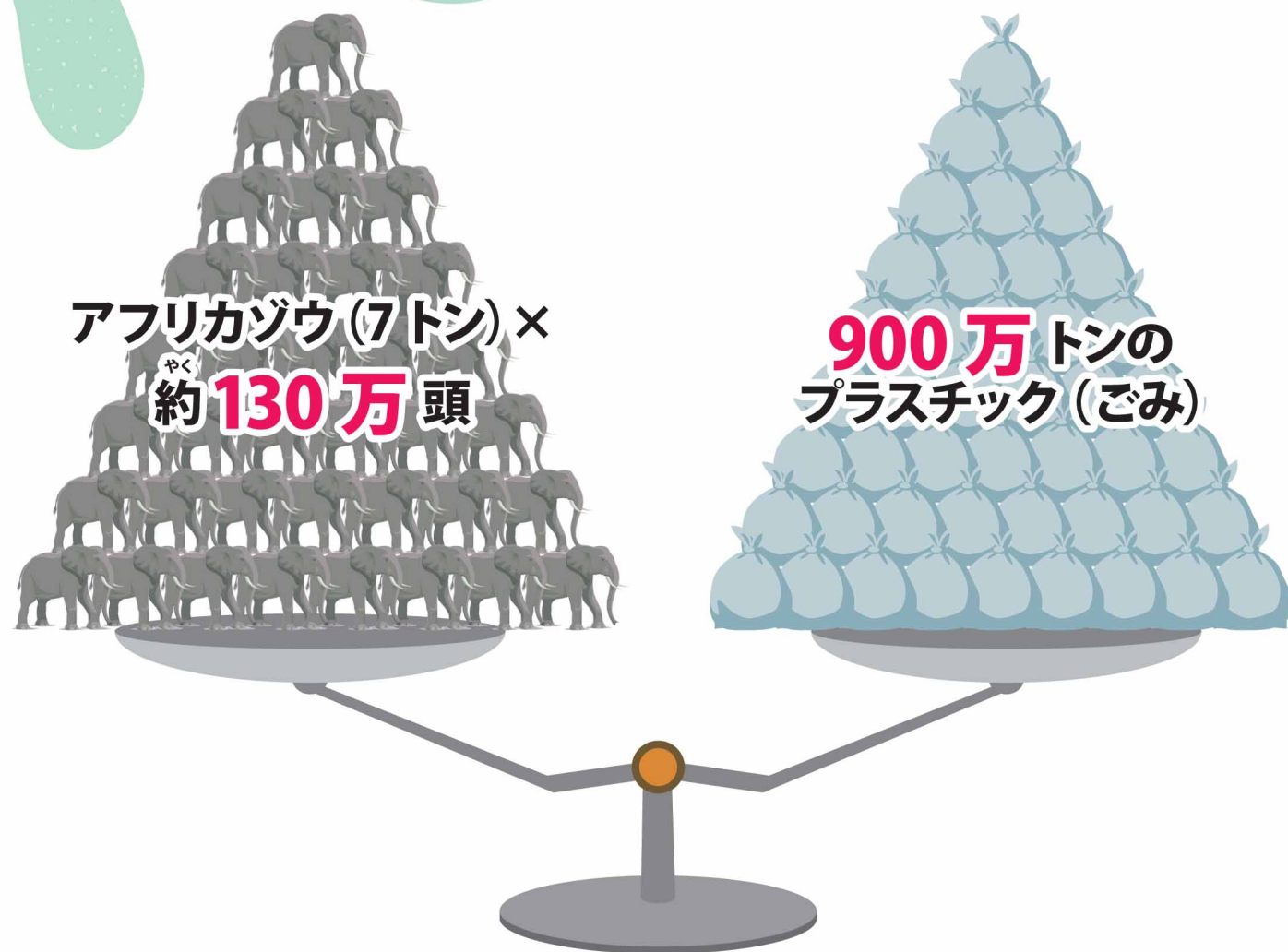
一人ひとりが考え、取り組まなくてはいけない大きな問題なのです。



ゼーんぶプラスチック!

プラスチックごみのリサイクルをくわしく知ろう

いま、日本では年間 900 万トンのプラスチックが、製品として生み出されているといわれます。数字が大きすぎて、ちょっと想像がつかないかもしれませんね。



たとえば、地上で最も大きい動物のアフリカゾウのオスの平均体重が約7トンですから、毎年、130万頭のアフリカゾウと同じくらいのプラスチック製品が作られていることになります。そして、だいたい同じくらいの量のプラスチック製品が、毎年ごみになって捨てられます。

★リサイクルの方法

住んでいる場所によって少しずつ違いますが、生ごみとプラスチックごみは別々に分けて出しますね。その理由は、プラスチックをリサイクルするためです。

プラスチックごみをリサイクルする方法としては、下のようなものがあります。



マテリアルリサイクル



プラスチックごみを原料にして新しくプラスチック製品に再生する方法で、「材料リサイクル」とも呼ばれています。マテリアルとは、「材料・原料」という意味です。

たとえば、作業着、洗剤用のボトル、公園におかれるベンチ、荷物を運ぶコンテナなどに生まれ変わります。

ケミカルリサイクル



プラスチックごみを化学的に分解するなどして、化学原料に再生する方法です。ケミカルとは、「化学的な」という意味です。

たとえば、ガスや油といった燃料に再生します。また、鉄を作り出すための原料にも生まれ変わります。



も燃やしても、問題は解決しない

日本はプラスチックごみの8割を有効に利用しているとされています。

この数字を見ると、日本はプラスチック問題に積極的に取り組んでいる、優等生の国というイメージを持つかもしれません。

ところが、前のページで紹介した、マテリアルリサイクルとケミカルリサイクルは全体の27.8%だけ。58.0%は「熱回収」といって、プラスチックごみを燃やすことで発生した熱を、発電などに使っているのです。

「発電に使われるのなら、いいことじゃないの？」

そう思う人もいるかもしれませんね。

★プラスチックを燃やすと何が起きるか

石炭や石油を燃やすと、たくさんの二酸化炭素が発生するのは聞いたことがあると思います。

プラスチックは主に石油をもとに作られているので、燃やすと二酸化炭素が発生します。その二酸化炭素が大気中に増えると、地球の気温は上がっていきます。これが「地球温暖化」です。

地球温暖化が進むと、南極や北極などの寒い場所の氷や氷河が溶けて、海水が増えます。その影響を受けている動物の代表が北極圏にすむホッキョクグマです。

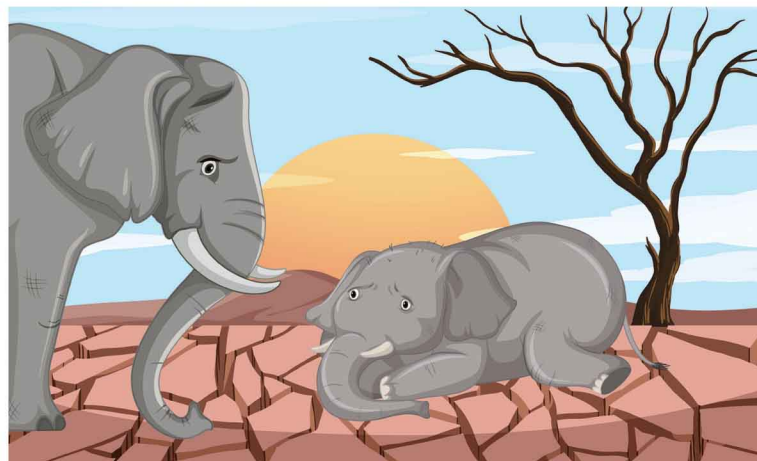
ホッキョクグマは、海氷の上にすむアザラシをエサにしています。獲物の少ない季節に備えて、食物の豊富な春に集中して獲物を捕らえ、脂肪をたくわえますが、氷が溶ける期間が長くなれば、狩りの期間が短くなり、体が弱ったり、子グマを育てられなくなってしまいます。

ホッキョクグマだけではなく、温暖化によって水不足になって苦しむ動物もいます。世界

もんだい かいけつ 問題は解決しない



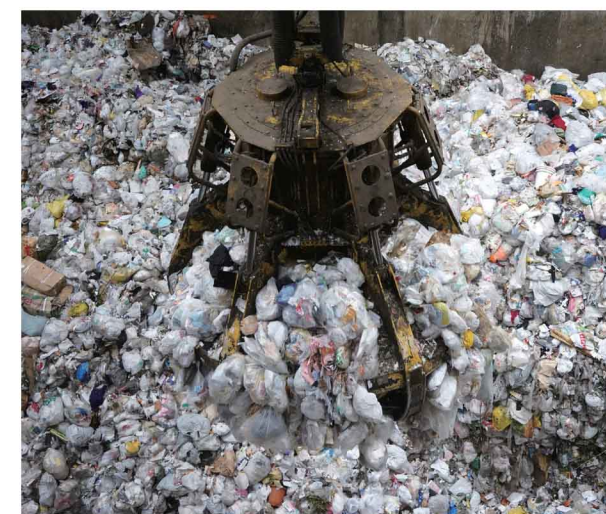
氷の上で狩りをするホッキョクグマたち



地球温暖化で水が不足し、アフリカゾウが苦しんでいる

約100カ国以上で活動している環境保全団体WWFでは、絶滅危惧種の10種に1種が地球温暖化の影響を受けていると発表しています。

そして、地球温暖化は私たち人間の暮らしも脅かします。地球温暖化が進むと、気候が変わり、大雨や洪水、強い台風など、これまでより大きい災害が起きる原因になっていると考えられています。



プラスチックはどんどん作られて、どんどん捨てられています。その量は年々多くなっています。ということは、プラスチックを燃やす量も年々増えているわけです。

そうすると、二酸化炭素がますます増えて、地球の気温は上がってしまいます。

★プラスチックを燃やせば燃やすほど、問題が増えていく

プラスチックを燃やしてしまえば、新しいプラスチック製品を作るとき、また石油が必要になります。

日本は、石油のほとんどを海外から輸入しています。日本では石油が産出されないからです。

さらに、石油は限りのある天然資源です。使い続ければ、いつかはなくなってしまいます。

つまり、プラスチックをどんどん使い続けてごみを出し、そのごみを燃やせば燃やすほど、問題が増えていくのです。



燃やしても、問題は解決しない